

今回も、前号 no. 84 の続きを紹介します。

『ドラえもんキャラクタータイプ別 新人教育術』

医療関連感染対策の総合専門誌

INFECTION CONTROL(インフェクションコントロール)

2016年9月号に掲載されています。



ジャイアンタイプ

カッとなりトラブルを起こしてしまう

キャラクター紹介

ジャイアンは映画などではとてもカッコいい親分肌として描かれていますが、原作では結構ひどいことをしています。ジャイアン

自身も実は「悪いことをしている」と分かっているようです。ではなぜジャイアンはそんな行動を取るのか考えていきましょう。

ジャイアンタイプに潜む問題点

「弱い者から強引におもちゃを奪い取る」「悪口を言われたら暴力を振るう」など、原作に出てくるジャイアンはとにかく暴力行為が目立ちます。どうしてジャイアンはこのような行動を取るのでしょうか。実は作中で、本人は「自分でも分かっているけれど、どうにもならない」と言っています。すなわち、「自分を制御できないからこそ衝動的に問題行動を起こしてしまう」のでしょう。彼のような“ジャイアンタイプ”の新人への支援は、しっかりと行うことが大切です。

コーチングの方法

“ジャイアンタイプ”の新人看護師がトラブルを起こしたときには、必ず本人が「落ち着くのを待ってから話を聞くこと」がポイントです。当たり前ですが、誰も興奮しているときには相手の話を聞くことができません。このようなときにこちらも感情的に「何てことをしているの！」などと言ってしまえば、相手はますます怒り出すばかりか「自分はダメな人間なんだ」「誰も自分の気持ちを分かってくれない」と思ってしまう可能性もあります。そのため、まずはクールダウンするのを待つから、ゆっくりと話を聞くようにすることが重要です。問題となった行動に対して、「どうして相手がそんな気持ちになっ

たのか」などを一緒に考えて、フォローしていくようにするとよいでしょう。

まとめ

衝動的に問題行動を起こしてしまう“ジャイアンタイプ”には、「一度落ち着く場をつくること」「気持ちをうけとめること」から始め、今後どうするかを一緒に考えることが大切です。



スネ夫君タイプ

自分のできる範囲のことしかしない

キャラクター紹介

スネ夫君は、臆病で結構神経質などころもあります。映画ではそのような面ばかりが強調されていますが、それ

も彼は友だちを置いて逃げ出したことはありません。そんな彼の特徴はどのようなところにあるのでしょうか。

スネ夫君タイプに潜む問題点

スネ夫君と言えば「要領のいい子」というイメージを持つ人も多いのではないかと思います。作中でも他力本願などところがあり、何かあるとドラえもんに頼る場面が目立ちます。彼の要領の良さは見習うべきところもありますが、彼の悪い面である「あくまで自分のできる範囲内でできることしかやらない部分」や「学ぶ意欲、向上心が低い部分」を持った、“スネ夫君タイプ”の育成には手間取ることでしょう。

コーチングの方法

スネ夫君は、ああ見えて責任感はある子です。長編作「のび太の鉄人兵団」では圧倒的な数の敵を前に逃げずに戦い続け、「のび太の宇宙小戦争」でもしずかちゃんを庇うなど、与えられた仕事を全力でこなしました。

“スネ夫君タイプ”の人にも同様に、しっかりとした役割と目的を与えることが大切です。また、いきなり100%を望むのではなく、本人が「できそう」と思えるような「スモールステップ」で少しずつ課題を難しくしていくこともポイントです。

また、やる気がない人に対してやる気を出させるには、最初は外発的動機(いわゆる「ご褒美」のこと。昇進や評価なども含む)を与えることがら行い、次第に勉強への内発的動機(その行為自体が楽しいと思えること。この場合、勉強自

体が楽しいと思えること)を高められるように支援することが肝心です。

まとめ

向上心が低く努力しようとしなない。“スネ夫君タイプ”には、まず「目的意識と役割」を持ってもらうことが大切です。そのうえで外発的動機も組み合わせつつ、次第に「努力することが楽しい」と思ってもらえるように関わりましょう。



ドラミちゃんタイプ

ミスや慣れない状況に疲弊してしまう。

キャラクター紹介

ドラミちゃんはとても優秀なロボットです。

実際にドラえもんに代わってのび太君の

面倒を見たこともありましたが、「のび太君のできることを引き出す」方法で、非常に上手に支援していました。しかし、ドラミちゃんはいざというときにはドラえもんにはかいません。

ドラミちゃんタイプに潜む問題点

ドラミちゃんは出木杉君と並び、非常に優秀です。例えば、マラソンでへばっているのび太君に対しても、「後ろから押してあげる」のではなく「自力で最後まで走る気を起こさせる」など、本人の能力を上手に引き出すことを大事にしています。しかし、トラブルが起こるとドラえもんを頼るなど、トラブル対処にはさほど強くありません。

新人看護師が彼女のように、何かあると先輩を頼るのは当たり前ですが、それをこじらせて「ミスしたときなどの不測の事態に対応が苦手な人」「慣れない状況(患者さんの死やクレームなど)に疲弊してしまう人」になってしまうと、こちらも対応が必要になります。

コーチングの方法

ミスしたときや慣れない状況で疲弊した新人には、ついつい「助言」や「励まし」をしたくなると思いますが、その気持ちを抑えて、まずは相手のペースに合わせてじっくりと耳を傾けることが大事です。また、「このときはどのような状況であったか」だけでなく「このときはどのような気持ちになっていたのか」を自分のことのように、しっかりと捉えて伝え返す「感情への応答」も大切になります。

そして「どうしてミスが起こったのか」ではなく、「今後どうすればミスがなくなるのか」など「未来志向での対応」をすることや、「肯定的な態度をとること」も重要です。

まとめ

失敗していった“ドラミちゃんタイプ”の部下には、まず話をしっかりと聞くことから始め、どうすれば今後ミスが起らなくなるかについて未来志向で考えるとよいでしょう。

出来杉君タイプ



自分こそが正しいと思ってしまう

キャラクター紹介

出来杉君は勉強ができてスポーツも万能です。さらに優しく、自分に対して嫌がらせをしてきた人をも許す度量の広さを持っています。しかし、彼は聞き役に

なることが、案外苦手な面もあります。出来杉君はともかく、このようなタイプの看護師さんにはフォローが必要になると思います。

出来杉君タイプに潜む問題点

出来杉君は、頭も性格もいい子です。しかし、周りの意見を聞いても、「それより〇〇の方がいいよ」と提案する役になりがちです。

出木杉君自身は周りとうまくやれているのですが、これが高じて「自分こそが正しい」と思う“出木杉君タイプ”の新人看護師の場合、「相手を過剰に非難する」「周りの声に耳を傾けない」ことになって問題をおこしてしまうかもしれません。

コーチングの方法

“出木杉君タイプ”には、まずは“こちらの話を聞く姿勢”をつくってもらうことが大切です。そのために重要なのは、「相手がどんな気持ちでそう言ったのか背景を知ること」とこちらから「自己開示」すなわち自分の気持ちを伝えることなどにより、「信頼関係をつくること」です

そのうえで“ドラえもんタイプ”と同様、「相手がどんな気持ちになるのか」など、気持ちを理解できるように話をすることが重要です。特に相手を過剰に非難する人、周りの声に耳を傾けない人は、「自分の行動が相手にどう影響を与えるのか」ということについて、頭から抜け落ちているのかもしれない。その気付きを与えることも大事です。

まとめ

自分こそが正しいと思ってしまう“出木杉君タイプ”には、まず「話を聞く姿勢」をつくってもらいましょう。そして「相手の気持ち」に気付きを与えられるように促すことが大切です。